

「一節本」静かな注目

県内で取り組み広がる

心に残った本の「一節」と、その感想を集めて一冊に。本と出会うための新しいブックガイド。クラス単位。そんな「一節本」の取り組みが、山梨県内で静かに広がりつつある。呼び掛けは、「二節本はうれしい」と期待する。

（桑原久美子）

「心が救われる一節」「さあ、興味を持ち、手に取ってもらおう。今日も前に進もう」と自分の青きかけになるのではないか」中を後押ししたいときに読みた一節」「血をわめ胸を刺す一節」「甘美な狂気の「一節」……。一節本では、読み手の気を引く見出しとともに、本の一節を引用し、その一節を選んだ人の感想と、引用元となった本の情報を掲載している。

30節で1冊

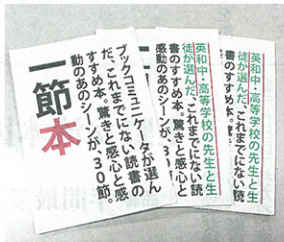
寄せられた投稿はまず、フェイスブック上で公開。30人分が集まったらまとめてA4判の小冊子を作り、投稿者には無償でプレゼントしている。

一節本の取り組みを呼び掛けしたのは、NPO法人「街全体がミュージアム」という視点で、県内の街歩きガイドブックを作る活動などに携わってきた経験から、「その本の魅力が詰まった一節を抜き出すことで、本に



「一節本」を呼び掛けた山本育夫さん（左）と、編集協力する長谷川敏夫さん（甲府市屋形3丁目の絵本専門店「ゆめや」）

これまでに制作された「一節本」



「新たな読書運動になれば」

も現れ、山梨英和と中高（三井中学校）は創立130周年記念して学校単位で一冊を作った。

山梨英和の一節本は12月に完成。三井校長をはじめとする教員や、中学生、高校生の有志30人が参加し、純文学やライトノベル、実用書のほか、キリスト教教育を掲げる同校ならではの聖書に関する書物などから、バラエティー豊かな30節が集まった。

感性詰まる

読書好きで図書室の常連という高の鎌田凛さんは、「神様のボート」（江國香織著）の一節を選んだ。「使われている言葉が美しく、暗記するくらい好きな箇所。この一節から本に取ってこれたらいいな」と話す。

元図書委員長の高3の曾根登華さんは、大好きな宮沢賢治の「よたかの星」の一節から、「命の重さについて考えさせられた」と感想を寄せた。元文芸部部長で高3の小松明日香さんは「一節本について、自分が普段読まないジャンルの作品にも触れられる」と感想を話す。

山梨英和の「一節本」は、県内の図書館などにも配布する予定。国語科の長田卓子教諭は「今の女生徒の感性が詰まった一節本から、学校の様子を感じてほしい」と話す。

編集協力している長谷川さん



「一節本」に参加した山梨英和の高の鎌田凛さん、曾根登華さん、小松明日香さん（右から）山梨英和と中高図書室

「同じ本をテーマにしても人によって心に残る一節は異なり、30人いれば30人の一節があるのも面白い」と話す。

山本さんは「ハンドバトルなども人気だが、手に取って読み比べられるのが一節本の良さ」と話し、書き手が集まってきたワークショップなども計画したい考え。会社や学校、クラブなどの単位の投稿も募集し、「一節本を新しい読書運動にしたい」と夢を描いている。



「一節本の投稿は、フェイスブックつなNPOのほんぽん堂移動編集室まで募集している。これまで制作した一節本は、甲府・明月堂書店で2754円で販売している。問い合わせは山本さん、電話0900-12223-8800。」